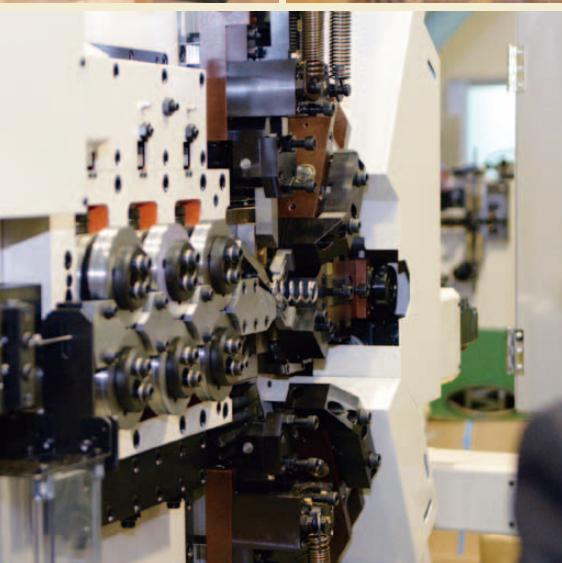


# 修学旅行

特集

交  
差

ク  
ロ  
ス

# 先輩の町工場

内子町（旧五十崎町）の出身で、高校卒業後に大阪で町工場を創業した宅見弘さん。その町工場に修学旅行中の五十崎中学校の生徒たちが訪れました。大先輩が創業した町工場には、さまざまな技術や思い、将来を考える大切なことがたくさん詰まっていた――。







新興機械工業株式会社

創業者（現相談役）

宅見 弘さん

## Interview 宅見さんが生徒たちに伝えたこと

好きなことは苦勞を感じないもの  
やりたいことを見つけて、邁進してほしい

私は旧五十崎町の上町で生まれ、高校を卒業する18歳まで内子に住んでいました。中学生のころから機械が好きで、柱時計や自転車を壊したり、修理したりして遊んだものです。いつか機械を造る道に進みたいという念願を持っていました。

昭和30年に高校を卒業して、大変不景気な時代に大阪に出てきました。ある会社で働いていましたが、食費を削った生活がたり、肺結核を患って1年間休職したことがあります。その間、自分がやりたいことをやっていないことに気付き、機械を造る会社を探すことにしました。

まだ就職が厳しい時代でしたが、やっとのことで阪村機械製作所に入社しました。そこで営業を任されたので、技術と知識がないとお客さんに失礼と考えました。毎日、残業を7～8時までやって、帰ってすぐ2～3時間寝て、夜中の1時に起きて、朝まで設計の勉強をしました。設計や運転を覚えるのに1年半かかりましたが、自分の技量だけで生きていける自信も付きました。

私は銅線を加工する機械を担当し

ていましたが、不景気のため会社がその部門を手放すことになりました。これは天の時と思い、社長にその部門を譲ってもらって、10人足らずの仲間と会社を立ち上げました。

起業してからも大変でした。日曜日も正月もなく、毎日、夜10時まで仕事。そこまでしても、飯が食べないくらい厳しかったです。ばねの機械は、お客さんから頼まれて造るようになりましたが、造ったけれど売り先が倒産したりして、たくさんの在庫を抱えたこともあります。会社らしい基礎をつくるまで20年かかりました。

起業は厳しいけれど、楽しみもあります。何より好きなことをやっていると感じません。楽しさの方が勝ります。忍耐強く、自分がやりたいことを常に頭に念じて努力を続ければ、やりたいことが実現できると私は信じています。

若い皆さんには、これは誰にも負けないという仕事・技術を身に付けてほしいです。自分のやりたいことを一生懸命やって、自分が進むべき道に向かって邁進してください。

## 新興機械工業の会社概要

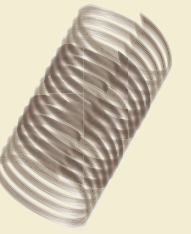
- 会社名 新興機械工業株式会社
  - 所在地 大阪市平野区加美北3丁目17番25号
  - 事業開始 昭和36年9月 ●資本金 3,000万円
  - 従業員 40人 ●年商 14億円（平成26年2月期）
  - 販売先 国産ばねメーカー約700社、海外34カ国約100社
- ※新興機械工業は、ばね加工をする機械を設計・製作する会社です



←会社の外観

# 修学旅行×将来の夢

五十崎中学校の3年生は、修学旅行で地元出身の先輩が創業した工場を訪問しました。「自分のやりたいこと」と「将来の夢」。少し自分と正直に向き合いたくなる修学旅行——。



愛媛新聞社の取材を受ける生徒



工場見学の様子



宅見さんの話を聞く生徒たち

世界で活躍する会社の  
創業者を訪ねる修学旅行

関西方面で修学旅行中の五十崎中学校の3年生51人が4月25日、地元出身の先輩が大阪で創業した工場を訪問し、ものづくりの現場を見学しました。

一行を受け入れたのは、ばねをつくる機械を製造する新興機械工業。創業者は内子町（旧五十崎町）出身の宅見弘さん（77）です。宅見さんは内子高校を卒業後、大阪に出て会社を創業しました。大変な苦勞を経て、今では国内のばね製造会社の約70％が新興機械工業の機械を使用、海外でも34カ国と取引をする大きな会社へと成長しました。

「ばね」で社会貢献する会社

ばねは生活の至るところで使われています。シャープペンシルを分解すると、ばねが出てきますし、炊飯器のふたもばねによって開きます。洗濯機や換気扇、医療機器などにも、ばねが

使われています。そして一番多くばねが使われているのが自動車。1台になんと4000個ものばねが使われているそうです。自動車のばねは事故が起きないよう、精度や品質が高いことが重要です。新興機械工業では、そのような高精度・高品質のばねをつくることができる機械を製造し、社会に貢献しています。

修学旅行の新たな方向性

修学旅行の目的は、子どもたちの見聞を広めること。中学3年生は進学・就職を考える大切な時期です。修学旅行を通じて働く人に接することが、自分の将来を見つめる機会になることが期待されます。

地元出身の創業者を訪ねる同校の取り組みは、内子町内では初めて。身近な人の活躍は、生徒たちに大きな刺激を与えたようです。自分たちの学校生活が、将来の夢につながるということが実感できる。そんな学びが広がるといいですね。

## 自分たちの可能性に気付いた修学旅行

「ものづくりの町」を修学旅行先に検討していたところ、内子町から新興機械工業の工場見学の話があり、今回の取り組みが実現しました。

工場見学は、創業者の体験談や社員一人一人が会社を支えている姿など、大人でも印象に残る内容でした。地元出身の

人の成功は、生徒たちにも可能性がある世界。こういう道もあることに気付いたと思います。生徒たちも真剣に聞いていて、多くのことを感じ取っていました。大変意義のある修学旅行になったと思います。

ご協力いただいた新興機械工業のみなさん、本当にありがとうございました。



五十崎中学校  
藤崎 靖博 校長





西岡 たいち 太一さん

ばねが作られる瞬間のスロー映像を見ると、機械がとても複雑な動きをしていることが分かりました。このような機械を造っている人はすごいと思いました。また、ばねにはたくさんの種類があり、一つ一つ役割があることも知りました。短い時間の工場見学でしたが、身近にあるばねの奥深さを学ぶことができました。



高岡 もえ 萌絵さん

宅見社長や社員の皆さんに詳しく教えていただき、わくわくする楽しい工場見学になりました。

ばねは私たちの生活に欠かせないものです。会社の人たちは、ばねを作る機械を製造することで、世界中の人々の生活に貢献しているそうです。その創業者が五十崎の出身と知り、驚くと同時に誇りに思いました。



谷本 みづき 美月さん

宅見さんの話を聞いて、自分の得意なことを伸ばせば夢がかなうことをあらためて感じました。これから自分の得意なことを少しずつ伸ばしていこうと思います。

今回の工場見学で学んだことを忘れず、自分のやりたいことを実現できるように勉強を頑張ります。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。

## 感謝の気持ちを込めて、生徒51人が書いた手紙——。 生徒たちが学んだこと、感じたことが伝わります。

宅見さんのお話で、起業することの難しさや、社会の厳しさを知った反面、努力することや誠実に頑張ることの大事さが分かりました。また宅見さんは子どものころから機械が好きで、それが今の仕事につながっているそうです。子どものころの経験や今している勉強の一つ一つが、視野と将来の可能性を広げることを学びました。



吉岡 かんた 莞汰さん



池田 りの 莉乃さん

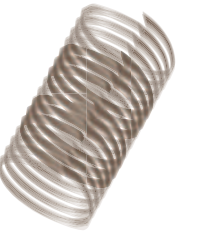


有友 あやの 彩乃さん

今回の工場見学で、社員の一人一人が会社を支えていることや、努力の大切さを知りました。

機械を作る細かい作業のとき、社員の皆さんの集中力はすごいと思いました。私も少しでも長く集中できるように見習いたいと思います。今年は受験があるので、この気持ちを忘れずに勉強にも集中して取り組みたいです。

# 修学旅行×ものづくり



生徒たちが学んだのは、ものづくりの技術の素晴らしさと働くことの大切さ。  
工場見学の内容を、生徒たちが書いた手紙とともに紹介します。

ものづくりの技術に感嘆

生徒たちは、3班に分かれて工場内を見学。事務所の様子、機会の検査や製造工程や造られた機械がどのように動いてばねをつくるのかなどを見て回りました。1本の真っ直ぐな材料が次々とばねになっていく様子や、複雑な形状のばねを瞬時につくる機械の動きを見て、驚きの声が上がっていました。

「働く」ということを考える

会社は事業を通して、社会の発展に貢献しています。宅見社長は「働くことは世の中の役に立つこと。会社は働く場を提供し、一緒に働く仲間生活を守らなければならぬ」と言います。一人一人が世の中の役に立つことが、会社を支えることにもなります。最後に宅見社長は、「大切なのは自分がどうなりたいか。何が好きか。今の自分に問いかけ、その気持ちを持ち続けることが人生を豊かにする」と生徒たちに伝えました。

## 見学内容を一部ご紹介します

みんなで1つのものをつくったり、新しいものを世の中に出したりするのは本当に楽しいです。私たちが製造した機械で、品質の高いばねができることが、社会への貢献につながります。五十崎中学校の皆さんに、私たちの仕事を知ってもらい、何かを感じ取ってほしいと思い、見学内容を考えました。内子町の皆さんにも一部ご紹介します。

新興機械工業株式会社

宅見 隆 社長



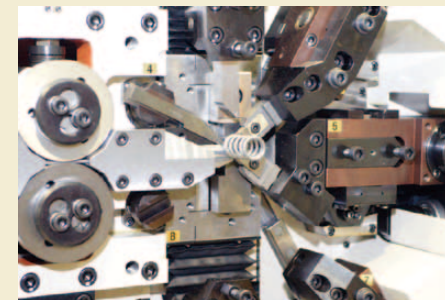
①事務所の様子。機械を造る人だけではなく、事務をする人もいます。一人一人が会社を支えています。



②部品の寸法検査。ばねをつくる機械は精度が命。品質が良いばねをつくるため100分の1mm単位で大きさを測ります。



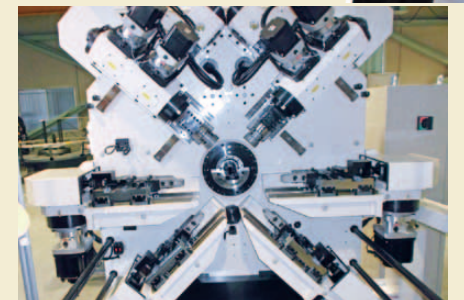
⑤顕微鏡で見ないと分からないばね。髪の毛より細い0.03mmのばねもつくります。



③ばねをつくる機械。機械によって、つくられるばねの種類や大きさが違う。1分間に300個のばねをつくる機械もあります。



⑥機械の組み立てを見学。1つの機械を一人が責任を持って組み立てます。



④引っ張りばねという、両側にフックが付いたばねをつくる機械。複雑な作業も精度が高く、この技術で会社は名を馳せました。



⑦生活の至る所ではばねは使われています。説明を真剣に聞く生徒の目が印象的です。